

平成30年日野第八小学校授業創造プラン

(1) 学力調査結果の分析と考察

第4学年 CRTテスト結果分析 (平成30年度)

国 語	
分析と考察	「国語辞典の見出し」や「要点の読み取り」「ローマ字」の正答率が低くなっている。日常の国語の学習の中で文章を読み取る学習に注力するとともに、十分な読書の時間を確保することで、子供たちが文章を速く正確に読み取ることができるように指導する。また、書く経験を増やし、抵抗なく考えや思いを書き表すことができるような指導も重視していく。国語辞典や漢字辞典を繰り返し使い、使い方に慣れるとともに、語句を増やし、語彙力を伸ばす指導が必要である。また、パソコンのローマ字などローマ字を活用した学習を計画的に設定し、ツールとして使いこなせるようにすることが必要である。

社 会	
分析と考察	観点別では特に「知識理解」や「思考判断表現」の正答率が低い。「地図記号」「方位記号」などの確実な定着ができていないこと、「ものをつくる人々のしごと」「昔の暮らし」の理解が不十分であることが挙げられる。個々の事象を覚えるのではなく、相互の関係性や事象の意味、理由を考える活動を意図的に増やし、社会的な見方・考え方の基礎を身に付けさせる指導が必要である。定着すべき知識が課題である。特に、方位や地図記号は「東京の地図たんけん」の学習において指導を続ける必要がある。また、身近な事象を用いた学習では固有の知識、理解にせず、一般化して理解していくことが必要である。社会的事象を総合し概念化するまとめの学習を意識して改善する必要がある。

算 数	
分析と考察	基本的な計算はできていても応用やそれらを活用して複雑な計算をする問題に課題がある。ただ方法を覚えるのではなく、その意味を理解させ、様々な場面で活用できるようにする必要がある。1時間のねらいを明確にし、問題解決的な学習を教師が提案していく。また、それに加えて日々の算数の授業で学んだ内容と日常生活との関連についても触れることで、自分たちの生活のいたるところに算数に関わっていることに気付かせ、算数を学ぶことの意味や算数の楽しさを味わわせる。□を使った式・数、円の仕組み、長さ重さの単位と適切な計器、時刻と時間、計算の工夫の設問の正答が低かったので、学習の中で意識して練習する必要がある。(朝学習の時間で取り上げる。) また、単位に関しては、実感を伴った理解となるように視覚的・具体的な提示を心がけるようにする。

理 科	
分析と考察	「昆虫の育ち方や体のつくり」では、知識として定着が弱いと考えられる。また、「日なたと日かげ」では、性質や働きを理解が足りないと考えられる。観察や飼育の体験を学習の中で充実させ、実体験したことを知識として定着させる必要がある。観察をさせる際には漫然と記録(スケッチ及びメモ)を取らせるのではなく、観察する際の視点(例えば形状・色・におい・手触り・重さ・他との比較等)を明らかにして観察させる。また、実験や観察をして得た結果について共通点を見いだしたり、比較したりする考察の場面を意図的に設定し、性質や働きの確かな理解につなげるようにする。

第5学年 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果分析（平成30年度）

国 語	
分析と考察	正答率が低かったのが、「書く能力」「言語についての知識、理解、技能」をみる問題であった。漢字の読み書きを繰り返し、反復練習する。授業や家庭学習などを利用して、下学年で学習した漢字も含め、復習を重点的に行う必要がある。また、辞書を活用し、日常的に意味を調べることで語彙を増やせるよう、学び方を指導する。言葉に親しみをもつだけでなく、読解力をつけるためにも読書量を増やすことの大切さも伝えていくことも必要である。

社 会	
分析と考察	正答率が低かったのが、「社会的な思考、判断、表現」「社会的事象についての知識、理解」「意図や背景、理由を理解、解釈、推論して解決する力」をみる問題であった。問題解決的な学習を行い、事象から理由や課題解決法を自分なりに考える学習を行ったり、知識として定着させるのみでなく、人々の思いや周りに与える影響についても推論したり活動を取り入れたりする必要がある。また、資料を活用する場面を多く取り入れ、わかることを取り出したり、まとめたりする学習も取り入れていく。

算 数	
分析と考察	正答率が低かったのが、「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識、理解」「数学的な考え方」「意図や背景、理由を理解、解釈、推論して解決する力」をみる問題であった。朝学習の時間などを使って東京ベーシックドリルを利用して、習熟を図る時間を増やしたり、少人数指導の良さを生かして、個に応じたきめ細かな指導を行ったりしていく必要がある。また、授業の中で問題場面の内容からきちんと立式させるために、テープ図や数直線を書かせるようにする活動を取り入れていく必要がある。

理 科	
分析と考察	正答率が低かったのが、「観察、実験の技能」「科学的な思考、表現」「自然事象への関心、意欲、態度」をみる問題であった。授業の中で ICT 教材を使って、視覚化を図ったり、実験の際に条件に着目させたりする機会を多くする。また、問題→予想→実験、観察→結果→考察→結論の学習の流れを定着させ、問題解決力を高める必要がある。

第6学年 東京都「全国学力・学習状況調査」結果分析（平成30年度）

国 語	
分析と考察	A 問題において 漢字を書くこと、読むことに関しては、他の問題と比較すると、正答率が低いことに加え、無解答率が高くなっている。漢字を正しく書いたり読んだりする力が弱いために、文章を理解することができず、さらに学習内容を理解することができないという状況に陥ることが考えられるため、繰り返し練習したり、習った漢字を様々な場面で活用したりしながら定着を図ることが必要である。 B 問題において 文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題や目的や意図に応じて内容の中心を明確にして書く問題については正答率が低くなっている。文学的・説明的文章の指導においては、文章構成を意識させ、効果的な表現方法について読み取ることを大切にするとともに、複数の資料を関連付けて書く、キーワードを使って書く、字数制限を設けて簡潔に書くなどの学習活動が必要である。

算 数	
分析と考察	A 問題において 量と測定の領域に関して正答率が低かった。特に分度器の目盛りをよむ（180°以上）問題、混み具合を比べる単位量当たりの大きさを求める問題の正答率が低くなっている。作図の学習の際に分度器などの道具の使い方を復習したり、家庭学習にも取り入れたりするなど活用したりしながら繰り返し指導していく必要がある。また、単位当たり量の大きさの問題などは、式や答えの意味を丁寧に確認しながら学習を進めていくことが大切である。 B 問題において 記述式の問題に関して正答率が低いことに加え、約10%の児童が無解答となっている。基礎的・基本的な知識・技能を活用する要素が強い問題であるため、まずは、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す必要がある。また、他者を意識して解答方法を伝えたり、数量関係を式や言葉で表現したりする活動を取り入れることにより、見出した答えを一般化して書くことができるようになると思う。

理 科	
分析と考察	観察・実験の技能の正答率が高い。しかし、記述式の問題に関しては正答率が低くなっている。実験方法を丁寧に教え、実験を楽しんで行うとともに、実験結果や考察を自分の言葉でまとめるなどの学習活動を継続して行っていく必要がある。

（2）授業改善の具体的な方策

【いのち】 “いのち”を感じ “いのち”を伝え合い 生きるよろこびあふれる明日へ	
具体的な方策	・道徳科の授業をはじめ、全教育活動においていじめを許さない見逃さないという指導を行うと共に、人権教育プログラム等を活用して人権尊重に関する指導を継続して行い、「命の大切さ」について、家庭と連携しながら指導に当たる。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応のために、生活アンケートを実施し、実態把握を進める。教職員・スクールカウンセラー等で組織した「いじめ防止対策委員会」を中心に児童の実態把握と早期対応を行う。

【学 び】 みなが参加し ともに知恵を出し合い 新たな創造へ	
具 体 的 な 方 策	・特別支援学級やステップ教室での取り組み手法を、実践的なOJTを通じて共有し、授業のUD化を進め、授業改善を図る。 ・朝の10分間学習等を使って反復学習に取り組んだり、夏季休業中のサマーチャレンジや補習教室を実施したりして、基礎的・基本的な学力を身に付けさせるための指導を充実させる。 ・学力向上支援員やボランティア、インターンシップなどの人材を効果的に活用する。 ・身近な教材による学習や体験的な学習、問題解決的な学習を行うなどして学習意欲を高める。 ・「主体的・対話的で深い学び」の研究発表などに参加し、伝達講習を通じてその理解を進める。 ・教材の内容に応じて、個別学習、グループ学習等の学習形態を柔軟に変化させ、協働的な学びの中から考えが深まるように工夫する。

【地 域】 地域の中で感じ 考え 行動する 地域がステージの学びへ	
具 体 的 な 方 策	・学校支援ボランティアと連携し、地域教材の活用や、保護者や地域の人材が授業に直接関わる学習活動を一層進め、児童が地域に対する愛着を深められるようにする。 ・校内研究では、生活科、社会科、道徳科、総合的な学習の時間などにおいて地域教材を開発し、地域と連携した学習を実施する。 ・幼保小中教員間で相互の授業参観、授業参画（外国語活動のTTや出前授業）、協議会等の計画を立て、学期に1回積極的に交流し教員相互が学び合う。 ・給食交流、スタートカリキュラム、授業交流など、教員相互の交流活動を取り入れる。

（３）教科別プラン

<国語科 授業創造プラン>

（意欲・関心・態度）

読み聞かせや読書指導を充実させ、様々な本と出会う機会を充実させる。生命の尊さを感じる本を意図的に取り上げる。

（話す・聞く能力）

ペアやグループで話し合う機会を計画的につくり話し合い活動を充実させる。スピーチ活動を積極的に取り入れる。

（書く力）

文章を書く前にはポイントを明示して書かせる。学年に応じて会話文を入れたり段落を意識させたりしながら書くようにする。計画表や構成表も活用していく。

（読む力）

心情や場面の様子など、目的を明確にして読み取る学習を進める。ワークシートなど教材の工夫をして全ての児童が自分の考えを表現できるようにする。また、朝の時間を使ったり、読書カードを活用したりして日頃から読書する習慣をつける。

（言語についての知識・理解）

漢字指導を充実させ、筆順に気をつけながら繰り返し練習させるようにする。辞典を有効に使い、語彙を増やせるようにする。週に一回程度、漢字小テストを行い、それぞれの児童の定着状況を確認する。

<社会科 授業創造プラン>

（社会的事象への関心・意欲・態度）

問題解決型の授業を基本として、児童の疑問から授業を進めていく。地域の学習をはじめとして、児童にとって身近に感じる学習や体験的な学習を取り入れる。

（社会的な思考・判断・表現）

資料を読み取り、自分で考え、他の意見と比較検討しながら調べて得た知識をつなぎ合わせて、まとめるという学習を定着させる。

（観察・資料活用の技能）

地図の見方やグラフの読み取り方はいつも確認するようにして地図やグラフなどの資料を活用しながら学習を進めていくようにする。

(社会的事象についての知識・理解)

我が国の47都道府県の名称と位置など社会的な事象についての知識を、教科書などの学習内容と関連付けながら、学習する。特に必要な知識についてはフラッシュカードなどを用いて繰り返し学習する。

<算数科 授業創造プラン>

(算数への関心・意欲・態度)

体験的な活動やICTを活用した学習を充実させ、算数が自分たちの生活の場面でも役に立っていることに気付かせる。

(数学的な考え方)

数直線などの図を用いて数量の関係を捉えさせる指導を充実させる。問題文を図に表すことで、それぞれの数の関係を捉えたり、立式の根拠を言わせたりする学習をする。

(数量や図形についての技能)

計算方法について計算方法を説明させたり、計算の仕方の意味を理解させたりするようにし、常に見当をつけて計算させるようにする。

(数量や図形についての知識・理解)

朝の時間や授業の始めなどに、ドリルなどを活用して反復練習する機会を計画的に設定する。単元のはじめには関連する既習事項に関して確認する時間を設ける。

<理科 授業創造プラン>

(自然事象への関心・意欲・態度)

身近な環境を生かした体験的な学習や観察・飼育活動を充実させ、児童が命と触れ合う活動を授業の中で計画的に取り入れる。ICTを有効に活用し教材の提示をする。

(科学的な思考・表現)

問題をつくり、予想し実験・観察をして結果をまとめるという一連の流れで学習を進める。予想するときに自分の考えの根拠を明確にさせる。結果をまとめる段階で友達と意見を交流して自身の学びを深められるようにする。

(観察・実験の技能)

くり返し操作をする機会、立ち戻る学習場面を設定する。必要な技能を身に付けさせるためにくり返し操作をする機会を設ける。またつまずきが見られた時点で立ち戻り、すべての児童が「できる」「分かる」ようにする。

(自然事象についての知識・理解)

観察・実験等の具体的な体験を通して、実感を伴った理解を図ることができるようにする。新しい用語について、その意味や使い方に触れたり、記録や意見の発表時に意識させたりして定着を図る。

<生活科 授業創造プラン>

(生活への関心・意欲・態度)

栽培や飼育活動を計画的に行い、命を感じる機会を意図的につくる。地域の人やものと触れ合う活動を充実させることで地域に愛着がもてるようにする。

(活動や体験についての思考・表現)

観察の観点を明確にした授業を展開する。観察カードを描くときは、観察の視点を明示し、よく見て丁寧に描けるようにする。一緒にやる楽しさを味わわせるよう、授業を展開する。

(身近な環境や自分についての気付き)

ねらいを焦点化し、活動に取り組ませる。視点を明確に提示して振り返りカードを書くようにする。話し合い活動を充実させ、友達との意見を交流する中で自分自身の考えに気付かせる。

<音楽科 授業創造プラン>

(音楽への関心・意欲・態度)

児童の実態を踏まえた教材を選ぶ。授業の中で達成させたいめあてを明確に提示する。

(音楽的な感受や表現の工夫)

自分の歌声や演奏の良さに気付かせ、自信をもたせていく。

(表現の技能)

技能の習得のポイントを丁寧にアドバイスしていく。技能が習得できたという達成感をもたせるような声かけをしていく。

(鑑賞の能力)

楽曲の着目点を明確に提示する。楽曲の曲想や音楽を形づくっている要素を理解させながら聴かせる。

<図画工作科 授業創造プラン>

(造形への関心・意欲・態度)

表現したいものを見つけられるように活動内容の価値づけを行う。

(発想や構想の能力)

自信をもって表現できるように環境面を整える。

(創造的な技能)

全学年までに経験した材料や用具をすぐに活用できる環境を設定する。活動の見通しをもたせるように学年の実態に応じた支援を行う。

(鑑賞の能力)

活動を振り返らせ、他者との交流を重視した活動を設ける。美術作品の鑑賞には、様々な視点を伝える。

<家庭科 授業創造プラン>

(家庭生活への関心・意欲・態度)

作品を作る喜びや体験する楽しさを味わえるように、実習や製作活動など活動する機会を多く設定する

(生活を創意工夫する能力)

日常生活に見られる工夫に目を向ける活動をする。友達の作品やその他の作品例等から工夫した点やよさを見出す活動をする

(生活の技能)

実践的・体験的な学習活動を充実させ、技能を身につけるようにする。教科書や掛図、資料等を活用して、作業等のポイントについて理解を深める指導を重視する。ICTを利用して視覚的に教材を提示していく。

(家庭生活についての知識・理解)

理解を深めるために、観察実習等を通して、話し合う場を設ける。教材を工夫し、既習の事柄をもとにして考えることができるように、教材を掲示したりグループで話し合ったりする。

<体育科 授業創造プラン>

(関心・意欲・態度)

運動への意欲を高めるために、領域毎の特性を生かした運動遊びの楽しさを十分に味わわせる時間を意図的につくる。順番やきまりを守って仲良く運動したり勝敗を競ったりするなどの態度の育成を単元のはじめに重点的に取り扱う。

(思考・判断・表現)

自分でめあて(課題)を明確にもって運動に取り組めるようにするために、友達のよい動きを共有する時間を毎時間確保し、友達のよさを伝え合って対話的な学びを充実させる。自分で動きを工夫できるような教材や場の設定をする。

(技能)

それぞれの技量を向上させ、運動量を確保し運動経験を積ませるために、技量に合わせた様々な場を準備する。動きや技能を上達させるために、ねらいとしている動き方をしている児童を紹介して技のポイントを共通理解する。ストレッチ運動やコーディネーショントレーニングを定期的・継続的に行って児童の運動能力を高めていく。

(知識・理解)

児童の疑問を引き出しながら、自分の身体や命について考える学習を充実させる。

<外国語 授業創造プラン>

(知識・技能)

音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどを理解するとともに、読むこと、話すこと、聞くこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

(思考・判断・表現)

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりする。自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

<学びに向かう力・人間性>

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

<特別活動 授業創造プラン>

(集団活動や生活への関心・意欲・態度)

集団や自己の生活に関心がもてるように活動できたことを価値づけし、自信をもって取り組ませる。

(集団の一員としての思考・判断・実践)

学級会を発達段階に合わせて行っていく。自分たちで議題を考え、目的に合わせて話し合えるようにする。活動後の振り返る場を設定し、よりよい活動ができるようにする。

(集団活動や生活についての知識・理解)

集団活動の意義や学級会の仕方について考える場を設定する。

<総合的な学習の時間 授業創造プラン>

(関心・意欲・態度)

児童が調べてみたい、やってみたいという思いが出るような導入になるようにICTを活用したり、身近なことを取り上げたりする。地域のことを計画的に扱い、地域への愛着を育てる。

(知識・及び技能)

体験活動や自身で調べる活動を通して、学習課題に対する知識を計画的に学べる機会をつくる。探究的な学習においてICTを効果的に活用する。

(思考・判断・表現)

自分で課題を立て、体験をしたり、調べたりしたことをまとめるという流れで学習を展開していく。友達との話し合い活動を計画的に設定し、対話的な学びを充実させる。

(学びに向かう力・人間性等)

地域のために何ができるか等、自分たちでどんなことができるか考え、実践していく学習展開にしていく。学んだことをどう生かしていくかという視点を児童に常に考えさせるようにする。

<特別の教科 道徳 授業創造プラン>

- ・児童の意欲を高め、一人一人の思考に沿った発問をして、本時のねらいに迫るようにする。
- ・ペアやグループでの話し合い活動を充実させることで、全員が自己の考えを深められるようにする。
- ・対話的な学習を充実させて、児童が多様な考え方や感じ方に触れることで、道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるような展開を考える。
- ・道徳的価値について、自分との関わりで考えることができるような展開や発問にしていく。
- ・授業を通して考えたことを表現する機会をつくり、自分のこれまでの経験を振り返り、自己の生き方についての考えを深められるようにする。